

## 学際的ワークショップ 『精神分析の知のリンクにむけて』

### 第10回「言語、対話、身体—オープンダイアログと精神分析—」

オープンダイアログ（OD）は、精神分析や家族療法を起源とするグループ精神療法である。一見すると、精神分析とODは正反対の「治療法」であるように映る。精神分析が秘匿性、転移、解釈を基軸とした技法であるのに対し、ODは精神分析の閉鎖的な姿勢を排除し、対話の継続性とリフレクティングを重視する方法論を採用している。しかし、ODの7つの原則の中には、心理的連続性や不確実性への耐性といった、現代精神分析が重視する要素が含まれている。両者はどちらも身体性を基盤に置き、対話の力を最大限に引き出す治療法である。それにもかかわらず、両者を対極的な治療法とみなす背景には、OD派の臨床家が精神分析を実践的に経験したことがないことや、逆に精神分析家がODの具体的な対話の現場に触れていない点が要因として挙げられるだろう。両者の類似性と異質性を精緻に検討することは、今日、必要な課題である。

斎藤環氏は、日本におけるODの普及活動を精力的に行っている精神科医である。そもそも、氏の臨床家としてのスタートはラカン派精神分析であった（『文脈病』青土社）。その後精神分析と決別し、再び精神分析を評価する思考の歩みは近著『イルカと否定神学』（医学書院）に魅力的な筆致で描かれている。加藤隆弘氏は、生物学的精神医学さらには集団精神療法の分野でも知られているが、経験豊富な精神分析家でもある。今回はこの二人をお招きし、「オープンダイアログと精神分析」をめぐって、さまざまな観点から討議を行う予定である。

オープンダイアログと精神分析はいずれも人文学の分野で注目を集めてはいるものの、日本ではあまり実践されていないのが実情である。今回のワークショップでは、これら異なる二つの「治療法」が抱える諸問題を検討し、私たちの臨床的思考をさらに深める機会にしたい。

日時：10月13日（月、祝）13:00～17:00

場所：小寺財団第一セミナールーム

方法：現地とZoomのハイブリッド形式

参加対象：どなたでも参加できます。

発表者：（導入）十川幸司「否定の力」

：斎藤環（医療法人八月会 つくばダイアログハウス）

：加藤隆弘（北海道大学精神科）

司会、討論：藤山直樹（個人開業）、十川幸司（個人開業）

参加費：4000円

定員：100名（会場25名まで）

申込方法：下記URLまたは右QRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/CDY1oXkAEhZrCcJx6>

申込期間：2025年8月13日（水）～9月29日（月）

問合せ先：kodera.fps@gmail.com



主催 小寺記念精神分析研究財団